

## 尾道系崎港松永湾あり方検討会（第1回）議事概要

### 1. 日時

令和8年4月27日（月）15:00～16:30

### 2. 場所

福山市役所松永支所 大会議室（福山市松永町三丁目1-29）

### 3. 構成員等

別紙のとおり

### 4. 議事概要

#### （1）尾道系崎港松永湾の現状および課題について

事務局より松永湾の現状および課題について説明。

#### （2）今後の検討内容について

事務局より今後の検討内容について説明。

#### （3）意見交換

構成員等による主な意見は以下のとおり。

##### 1) 松永湾の現状と課題について

- ・松永湾の現状として、特にアサリが減少したことは確かである。また、湾内にはアマモが繁茂している。この周辺の過去の調査では、松永湾の湾奥が最も栄養分がある。水面貯木場が位置しているエリアもおそらくアマモが繁茂している。自然に伸びているアマモを消滅させることは避けたい。
- ・原木輸送船の大型化が進む中で、船型や航路水深の制限がかかっており、この現状が続くと、港の競争力の低下につながりかねないため、浚渫を実施する必要がある。

##### 2) 今後の調査について

- ・今後の検討にあたり、海底の現状を知る必要がある。
- ・環境調査は適切な時期に実施する必要がある。
- ・利活用方策の検討にあたり実施するアンケートは、将来どのようなものを望むのかをイメージしやすいものとしてほしい。
- ・貴重な海であり、いかに有効に活用するかという観点を持ち、様々な方のニーズを把握していく必要がある。

##### 3) その他（水域利活用に関するアイデアなど）

- ・将来の利活用に向けては、実現性を踏まえて議論することが必要である。
- ・広島県が主導してどのように利活用していくかを示すよりも、この検討会での議論を通じて、共通の認識や今後の方向性を出していきたい。
- ・福山市と尾道市がこの地域をどのようにしていきたいかが重要であり、二つの市が同じ方向を向く必要がある。
- ・瀬戸内海は貧栄養化が進んでいるが、浚渫土は栄養分が多く、有効利用の方法はたくさんあり、松永湾では前向きに実施してほしい。
- ・栄養豊富な浚渫土を利用して、水深の浅い水面貯木場のエリアに干潟を造成し、アサリの生産拠点とすることも案の一つとしてある。
- ・日本国内でも有数のアサリの産地であった松永湾を復活させる方向性も良いのではないかな。



検討会開催状況

## 尾道系崎港松永湾あり方検討会 名簿

(順不同)

役割	区分	所属	役職	氏名	
構成員	有識者	尾道市立大学経済情報学部	教授	井本 伸	
		広島大学大学院 先進理工系科学研究科	准教授	日比野 忠史	
	関係団体	尾道市水産振興協議会	会長	藤川 伸一	
		松永湾里海協議会	会長	松若 隆博	
		広島県東部港湾振興協会 松永港部会	会長	中浜 勇治	
		中国地方港運協会尾三支部	支部長	河本 信行	
		株式会社ひろしま港湾管理 センター	代表 取締役	甲田 良憲	
	関係行政機関	国土交通省 中国地方整備局 広島港湾・空港整備事務所	所長	赤城 尚宏	
		広島県 土木建築局	空港港湾 担当部長	新村 貴史	
		福山市 建設局	土木部長	児玉 信治	
		尾道市 産業部	産業部長	山本 淳	
	オブザーバー	関係行政機関	広島県 農林水産局 東部農林水産事務所 水産課	課長	小川 憲太
			福山市 市民局 松永支所 松永建設産業課	課長	藤田 哲郎
福山市 経済環境局 農林水産課			課長	渡邊 光広	
尾道市 産業部 農林水産課			課長	高橋 光伸	